

カテゴリ:地域活性化

2025年5月23日

近畿地方の空港では初となる 大阪国際空港(伊丹)の地上支援作業車両に、 バイオディーゼル燃料「B100燃料」の使用を開始します

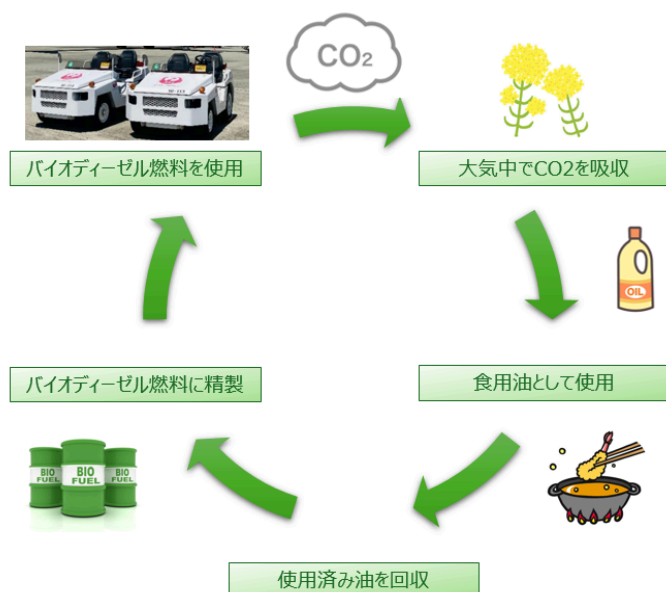
JALは、CO2排出量削減への取り組みの一環として、2025年5月26日(月)から、大阪国際空港(伊丹)配備の空港内地上支援作業車両であるトーイングトラクター(*1)にバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を使用開始します。

(*1)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

「B100燃料」は廃食用油・植物油を原料とするバイオディーゼル燃料で、原料となる植物の成長過程において光合成を行うことでCO2を吸収しており、カーボンニュートラルの概念で燃焼時のCO2の排出量はプラスマイナスゼロとなります。軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO2排出量削減の効果が見込んでいます。

この取り組みは一般社団法人リーゼル協会(*2)の会員である植田油脂株式会社(大阪府大東市)様が家庭から出る使用済みの天ぷら油などの廃食油を回収し、「B100燃料」の製造・供給を、マイナミ貿易株式会社大阪給油所(大阪府池田市)様が給油を担当します。

(*2)高純度バイオディーゼル燃料「リーゼル」の製造量拡大・普及・利用推進を目指し結成された団体。



<トーイングトラクター>

JALは、この循環型エネルギーの利用を通じて地域や社会と連携、協働して「CO2排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO2排出削減に取り組んでまいります。

以上